基準指数は2.6%上昇も、2026年のプレステージ・シャンパーニュ価格は横ばい

業者によると、潤沢な供給が短期的な上昇を抑え、上位銘柄では交渉余地が残っている。

2026年9月23日（水）



ファインワイン市場におけるプレステージ・シャンパーニュの価格は2026年に総じて安定しており、主要なベンチマーク指数が小幅上昇を示すなかでも、買い手には交渉の余地が残っている。

市場関係者はDecanterに対し、広範なファインワイン取引は今年ほぼ横ばいで推移していると語った。国際商社Bordeaux IndexおよびLiveTrade取引プラットフォームのGeraint Carter氏は、2026年の価格は「かなり横ばい」だと述べたが、2025年末の穏やかな反発を受け、過去12カ月では一部の主力銘柄がやや上昇しているという。

Vinum Fine WinesのMiles Davis氏も似た市場環境だと述べた。価格は概ね安定しているが、依然として買い手に有利な状況だという。「まだディールは取れます」と同氏はDecanterに語っ

た。Vinumでは7月のシャンパーニュ販売が目立って増加し、Salonが牽引したほか、Cristal Rosé、Krug、Jacques Selosseも上位の売れ筋に入った。

世界のワイン取引市場であるLiv-exの取引データは、限定的ながらも前向きな動きを示した。複数地域を対象とするLiv-ex 1000指数は、7月30日までの12カ月で1.2%上昇した。Champagne 50のサブ指数はこれをやや上回り、7月に0.9%、過去12カ月で2.6%上昇した。5年間ではChampagne 50は8.7%上昇したが、その上昇は一貫したものではなかった。

その変動性を示す一例がSalon 2012だ。Liv-exによると、このワインは、75clボトル12本入りケース、イン・ボンドで£7,000から£8,000の水準で活発に取引されている。2021年には£5,800でリリースされ、その後は急速に£13,300まで上昇したが、市場低迷のなかで反落した。

Carter氏は、トップクラスのシャンパーニュはすでにその調整の大半を織り込んでいると述べた。同氏はDecanterに対し、市場で現在入手できる品質の水準を踏まえると「シャンパーニュの買い手にとって素晴らしい時期だ」と語った。同時に、在庫が依然として容易に手に入るため、短期的に価格が急騰するとは見ていないという。

この供給状況が、現在の市場心理の中心にある。Decanterに掲載された別のコメントで、Bordeaux Indexは、2020年から2022年にかけての強い上昇と、その後の急な調整を経て、シャンパーニュ市場は厄介だが見慣れた局面にあると述べた。同社は、プレステージ・シャンパーニュの価格は現在、長期化する停滞に陥る可能性がある膠着状態にあるようだとした。

プレミアムなコレクター向け銘柄の外側では、圧力はさらに明確だ。Bordeaux Indexは、量販向けセグメントでは消費と出荷が依然として減少していると述べた。同社は、当面の優先課題は値上げを押し通すことではなく、まず消費者に再び飲んでもらうことだと主張した。生産者にとってこれは難しいメッセージだ。特に、コスト上昇とますます不安定な天候が何年も続いたあとでは、長期的には生産を支えるためにより高い価格が必要になる可能性がある。

しかし今のところ、供給側がその結果に逆風を与えている。Bordeaux Indexは、2018年、2019年、2020年の力強いヴィンテージがまだ流通過程にあり、市場のプレステージ帯に大きな供給増をもたらすだろうと述べた。需要が横ばいで既存在庫も高水準のままでは、総量の減少は自動的に価格決定力を生まないと同社は指摘した。

これはコレクターやオークションの買い手だけの問題ではない。二次市場の価格シグナルは、高級ワイン全般にわたって、発売戦略、値引き、在庫計画にしばしば影響を及ぼす。在庫が依然として豊富で、より広い消費需要も弱いなか、現在の買い手有利の基調は、主要指数がわずかにプラスを保っていても、飲料ビジネスの一部で価格の重しとなり続ける可能性がある。

次の試金石は、この秋の米国オークション市場かもしれない。Zachysのオークション全球責任者、Charles Antin氏はDecanterに対し、最近のセールは非常に好調だったと語った。同氏は、活況な市場に歩調を合わせるために同社は見積もりを上方修正せざるを得なかったと述べ、それを売り手にとって強い兆候だと評した。

Zachysは中間期レビューで、Château Montroseを含む「super second」ボルドーへの今年の需要が急増し、主要カリフォルニアワインへのコレクターの関心も強まっていると述べた。これは、シャンパーニュ市場に在庫が重く残る一方で、ファインワイン取引の他の分野では買い注文がより堅調

になっていることを示している。

この分かれ目は、2026年におけるプレステージ・シャンパーニュの異例の立ち位置を浮き彫りにする。同カテゴリーは指数ベースではファインワイン市場でより好調な部類に入るものの、その相対的な強さは広範な売り手優位の市場にはつながっていない。買い手は依然として機会を見つけており、価格がそれほど急上昇していない主因として、業者は依然として潤沢な供給を挙げている。

その結果、品質は高く、基準指数のパフォーマンスはプラスで、著名銘柄は引き続き取引されているものの、価格決定力は限られた市場となっている。高級スパークリングワインに関わるメゾン、商社、流通業者にとっては、より高いリリース価格を追うよりも在庫を動かすことに焦点が置かれ続けることになる。